

信楽焼に興味があれば、

「陶芸」をテーマにした緑豊かな芸術公園「滋賀県立陶芸の森」へ。野外展示も多数あり、ご家族やペットと一緒にピクニックも楽しめる広大な芝生の広場では、心地よい風に吹かれるひと時を過ごせそうです。「陶芸の森」から車を走らせること約15分。地元の方も「美味しい！」と口をそろえる手打ち蕎麦のお店「黒田園」は、福井県から移築した築100年という重厚なたたずまいの古民家で、信楽の名産「朝宮茶」の元お茶農家が営むお店です。店内は天井が高く、中央にどっしりとした囲炉裏が据えられ、どこか懐かしい時間が流れています。

あたたかなもてなしと豊かな自然、今も息づく伝統産業。こころも豊かになれる、ちょっと贅沢な一日を過ごしませんか。



## 「壺中庵」からほんのひと足、伸ばして。



### 滋賀県立陶芸の森

やきもの町・信楽にある「陶芸」をテーマにした緑豊かな芸術公園。中には陶芸専門の美術館「陶芸館」や、信楽焼のショップ&ギャラリー「信楽産業展示館」、また国内外のアーティストが滞在制作する「創作研修館」を備えています。広大な芝生の広場では、ご家族やペットと一緒にピクニックも楽しめます。そのほか園内には3mを超える大きな作品をはじめとした野外展示も多数存在し、「やきものxアートx自然」を五感で体験することができます。



〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勸旨2188-7  
TEL 0748-83-0909 FAX 0748-83-1193  
http://www.sccp.jp/  
利用料金：入園無料(陶芸館のみ有料)  
開園時間：9時30分～17時(入館は16時30分まで)  
休園日：月曜日(月曜日が祝日の場合は、その翌日)、年末、年始  
アクセス：新名神高速道路 信楽ICより約8分  
駐車場：普通車約250台 大型バス約10台



### 手打ちそばと朝宮茶の店 黒田園

福井県から移築した築100年という重厚なたたずまいの古民家で、信楽の名産「朝宮茶」の元お茶農家が営む手打ち蕎麦のお店です。喉ごしがよくコシのある麺は「九一蕎麦」という珍しい割合で打たれたもの。店内は天井が高く、中央にどっしりとした囲炉裏が据えられ、どこか懐かしい時間が流れています。平日限定、ボリュームたっぷりの「海老天セット」(1,500円)で大満足。自家栽培の朝宮茶も販売されています。

写真：もりそば(900円) / 天麩羅盛り合わせ[大](1,300円)  
※価格はすべて税込

〒529-1841 滋賀県甲賀市信楽町上朝宮271-1 TEL 0748-84-0485  
営業時間：11時30分～16時30分(種がなくなり次第終了)  
定休日：月曜日 / 第3火曜日(祝日の場合は翌日)  
アクセス：信楽高原鉄道信楽駅より307号線を宇治・大阪方面へ10分  
駐車場：あり

### 今回の表紙



### Ogama おおがま

今は使われなくなった登り窯と作陶小屋を改装した、信楽焼の窯元、明山窯直営のカフェ・ショップ・ギャラリー。陶芸教室も開催しています(要予約)。9部屋にわたる登り窯は庄巻の眺め。登り窯の周辺は自由に散策することができます。

〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野947  
TEL 0748-82-8066  
http://www.meizan.info/ogama/  
営業時間：11時～17時  
営業日：金・土・日・月・祝  
アクセス：新名神高速道路 信楽IC下車(約10分)  
駐車場：約8台

### 今回のモデル車



**MINI COOPER S E CROSSOVER ALL4**  
MINI 史上初、プラグイン・ハイブリッド・モデル。電力のみで42kmまでゼロ・エミッション走行が可能です。eDriveとガソリン駆動の切り替えは、非常にスムーズで自動的に行われます。  
¥4,790,000～



**Audi Q2**  
これまでのAudiとは一味も二味も違う「型破り」なクルマ。普遍的な特徴は維持しつつ、従来のAudiとは一線を画す個性的かつ斬新なエクステリア。そして抜群の取り回しの良さと数々の先進機能を搭載したプレミアムコンパクトSUV、それがAudi Q2です。¥2,990,000～

【特集】“DROP IN ON THE WAY” おとなの寄り道

しゅらくびと

# 人楽車

私流・カーライフの楽しみ方

## ロードスター。「車に乗る喜び」をこれほど体現できる車はありません。

無類の車好きとして知られるKBSキャスターの竹内弘一さん。中でもマツダロードスターは特に思い入れの深い車だそう。自らハンドルを握っていたけながら、お話をうかがいました。

### 変わらぬ「スピリッツ」を受け継ぐロードスター

ロードスターと初めて出会ったのは大学時代です。先輩の車に乗せてもらい、「乗っていてこんなに気分が良い車があるのか」と驚きました。その後、絶対にこの車に乗りたいと一所懸命アルバイトをして、黒のクロームメッキで5万キロを走ったロードスターを20歳の時に手に入れました。それから35歳までの15年間、走行距離が23万キロになるまで大切に乗り続けました。手放した理由ですか？家族が5人になったので泣く泣くです(笑)。

ロードスターはモデルチェンジを繰り返して、車体もエンジンもどんどん進化しています。ですがどのモデルに乗っても不思議なほど、「ロードスターに乗っているんだ」という感覚は変わりません。「ロードスター・スピリッツ」とも呼びたいような、この車の確かな個性はずっと



### INTERVIEW #02

## 竹内弘一

KBS京都キャスター



受け継がれています。今もこうやって乗っていると、大学生の時のことや恋人とデートした思い出などが生き生きと蘇ってきます。

### ドライバーに寄り添い、「等身大」で運転できる車

高級車は数限りなく存在しますが、ロードスターほど「人に寄り添う車」はありません。「人馬一体」ともいえるでしょうか、車の性能に振り回されるのではなく、「等身大の自分が車を動かしている」という実感があります。身体にフィットして運転しやすく、まるで車が身体の一部になっているように感じられるのです。

例えば、各パーツの位置ひとつとってもそうです。ほら、座ると自然に手がおさまる場所に、ハンドルやブレーキレバーが配置してあります。車の大きさや何人乗りかなどいろいろな条件があるので、全ての

先輩の海平とアナウンサーと自動車イベントにて



竹内弘一 ● たけうち こういち KBS京都キャスター。1977年大阪府生まれ。同志社大学法学部政治学科卒業。2000年KBS京都にアナウンサーとして入社。現在はニュースの編集責任者=ニュースデスクも務める。国政、府政などの選挙特番の司会、構成も手掛け、京都の政治、経済の現場を幅広く取材中。クルマ、ゴルフ、料理好きの3人の子どもの2人の両面を併せ持つ。

車が必要なもののように作られているわけではありません。ロードスターはドライバーに優しい、ホスピタリティにあふれた車だと思えます。2シーターでたくさん荷物は積めませんが、決して実用的な車とは言えませんが、これほど「車を運転する」喜びを純粋に感じられる車は他にないのではないのでしょうか。世界中どこで見かけても思わず笑顔になる、日本が世界に誇れる車です。

## Koichi Takeuchi